

に正しい処方リストアップされる割合は、いずれの場合も平均 10 症例中 8～9 症例（処方正解率 80～93%）となった。『最終的に選択された処方』に正しい処方が選択される割合は、表 4 に示すように、平均 10 症例中 4～7 症例（処方正解率 40～75%）と大きな差が生じた。さらに、症例 1 題の解答に要する時間は、表 5 に示すように、アプリの疾患別疾病分類を用いた場合が一番短く、アプリの身体部位別疾病分類と書籍を用いた場合は同じくらいの所要時間になった。また、薬学部学生と新人薬剤師で比較した場合には、新人薬剤師の方が症例の解答に約 3 分間長く時間を要している結果となった。

D. 考察

バージョンアップした iPad 用『漢方方剤選択支援アプリ』を用いた検証実験にて、一般用漢方製剤全 294 処方の中から各模擬症例に相応しい漢方処方が約 90%の確率でリストアップされたことから、iPad 用『漢方方剤選択支援アプリ』の有用性が示されたと考えられる。また、薬学部学生と新人薬剤師の検証実験結果より、知識や経験の差が、アプリから導き出される結果に反映されることが示されたため、アプリ使用者における漢方処方や構成生薬の詳細情報に代表される専門的知識の向上が、漢方処方を最終選択する上で重要な要素になると推察された。今回、漢方処方及び構成生薬の詳細内容を確認・比較できる辞書の機能をアプリへ搭載し、自発的な学びができる機能を整備できたことから、こ

れらの辞書機能を処方検索と有機的に結びつけることにより、処方選択の正確さを向上させることが可能であると考えられた。

E. 結論

iPad 用『漢方方剤選択支援アプリ』のバージョンアップを行い、一般用漢方製剤全 294 処方を収載するアプリが完成した。今後、処方選択の正確さを向上させるために、漢方処方及び構成生薬に関する辞書の機能と処方検索を連携させることにより、更なる処方選択の向上を目指す必要があると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

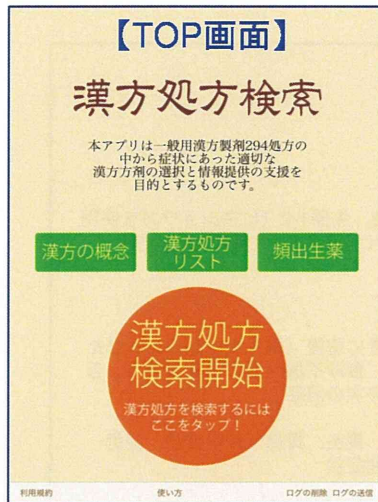
(学会発表)

- 1) 浅野孝、岡崎光洋、橋口正行、藤井勲、望月眞弓：一般用漢方製剤の適正使用を支援する iPad 用アプリの開発、医療薬学フォーラム 2014、2014 年 6 月、東京、講演要旨集、p.57
- 2) 浅野孝、岡崎光洋、橋口正行、藤井勲、望月眞弓：一般用漢方製剤の適正使用を支援する iPad 用アプリの開発、日本薬学会第 135 年会、2015 年 3 月、神戸、講演要旨集 4、p.183

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

特になし



【患者情報(年齢及び性別)の選択】



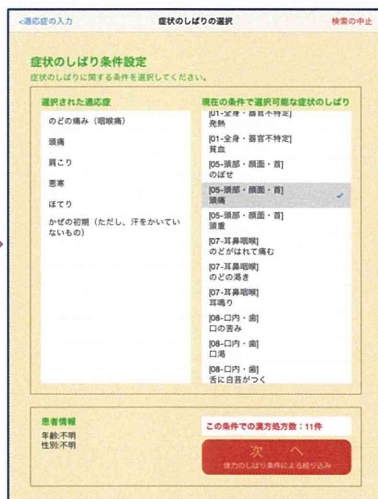
【患者情報(年齢及び性別)の選択】



OR



【症状のしばりの選択】



【体力のしばりの選択】

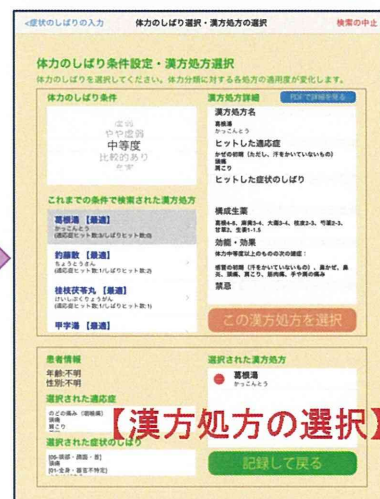


図1 漢方方剤選択支援アプリの画面推移

戻る	漢方処方リスト
生姜瀉心湯 しょうきょうしゃしんとう	漢方処方名 小柴胡湯 しょうさいことう
小建中湯 しょうけんちゅうとう	構成生薬
小柴胡湯 しょうさいことう	柴胡5-8、半夏3.5-8、生姜1-2（ヒネシヨウガを使用する場合3-4）、黄ごん2.5-3、大棗2.5-3、人參2.5-3、甘草1-3
小柴胡湯加桔梗石膏 しょうさいことうかきぎょうせ つことう	効能・効果
小承気湯 しょうじょうきとう	体力中等度で、ときに脇腹（腹）からみぞおちあたりにかけて苦しく、食欲不振や口の苦味があり、舌に白苔がつくものの次の諸症：
小青竜湯 しょうせいりゅうとう	食欲不振、はきけ、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、疲労感、かぜの後期の諸症状
小青竜湯加杏仁石膏 【小青竜湯合麻杏甘石湯】 しょうせいりゅうとうかきょう にんせつことう 【しょうせいりゅうとうごうま ぎょうかんせきとう】	禁忌
小青竜湯加石膏 しょうせいりゅうとうかせつこ う	・インターフェロン製剤を投与中の患者 【間質性肺炎があらわれることがある。】
小続命湯 しょうぞくめいとう	・肝硬変、肝癌の患者 【間質性肺炎が起こり、死亡等の重篤な転帰に至ることがある。】
小半夏加茯苓湯 しょうはんげかふくりょうとう	・慢性肝炎における肝機能障害で血小板数10万/mm ³ 以下の患者 【肝硬変が疑われる。】
椒梅湯 しょうばいとう	
消風散 しょうふうさん	
升麻葛根湯 しょうまかつこんとう	
逍遙散 【八味逍遙散】 しょうようさん 【はちみしょうようさん】	

図2 漢方処方リスト画面（例：小柴胡湯）

表 1 アプリ収録頻出生薬一覧

生薬名	含有 処方数	生薬名	含有 処方数	生薬名	含有 処方数	生薬名	含有 処方数
甘草	212	柴胡	43	麦門冬	23	荊芥	13
生姜	115	地黄	39	山梔子	22	細辛	13
芍薬	102	大黄	35	牡丹皮	20	升麻	13
茯苓	93	乾姜	32	黄柏	19	知母	13
大棗	90	麻黄	32	香附子	19	羌活	13
桂皮	89	枳実	32	杏仁	18	蘇葉	12
白朮	81	桔梗	31	桃仁	16	紅花	11
当帰	78	厚朴	29	五味子	15	延胡索	8
人参	74	黄連	28	白芷	15	山薬	8
蒼朮	73	沢瀉	28	木香	15	猪苓	8
半夏	63	黄耆	26	葛根	14	木通	8
川芎	56	加エブシ	25	縮砂	14	粳米	8
黄芩	53	防風	25	連翹	14		
陳皮	50	石膏	24	薄荷(葉)	14		

戻る	頻出生薬
芍薬 しゃくやく	名称 大棗
縮砂 しゆくしゃ	名称カナ たいそう
生姜 しょうぎょう	ラテン名 <i>Zizyphi Fructus</i>
升麻 しょうま	写真
地黄 じおう	
石膏 せっこう	
川きゅう せんきゅう	基原植物 <i>Zizyphus jujuba</i> Miller var. <i>inermis</i> Rehder (ナツメ)
蒼朮 そうじゆつ	[Rhamnaceae クロウメモドキ科]
蘇葉 そよう	利用部位 果実
大棗 たいそう	有効成分 サポニン : zizyphus saponin I~III
沢瀉 たくしゃ	構造式
大黄 だいおう	
知母 ちも	
猪苓 ちよれい	薬効・薬理 ・皮膚アナフィラキシー抑制作用
陳皮 ちんぴ	・過酸化抑制作用
当帰 とうき	主な用途 緩和、鎮静、強壮、補血を目標に用いられる。
桃仁 とうにん	漢方処方名 胃苓湯、烏薬順気散、温胆湯、加味温胆湯、越婢加朮湯、越婢加朮附湯、桂枝越婢湯、桂枝二越婢一湯、桂枝二越婢一湯加朮附、黄ごん湯、黄連湯、解急蜀椒湯、かつ香正気散、葛根湯、葛根湯加川きゅう辛夷、独活葛根湯、甘麦大棗湯、帰脾湯、加味帰脾湯、きゅう帰脾血飲、きゅう帰脾血飲軍一加
人參 にんじん	
薄荷 (薄荷葉)	

図3 頻出生薬画面 (例: 大棗)

症例 I

【症例】 55 歳主婦

【主訴】 食欲不振、胃もたれ

【病歴と所見】 元来、胃腸虚弱で過食や過労で胃が悪くなる。4 か月前の 6 月頃から、食欲不振、胃もたれ、胃の重い感じが続く。暑くなって悪化し、体重も減った。胃造影検査では、慢性胃炎・胃下垂の所見。疲れやすく風邪をひきやすい。食後眠くなる。158cm、43kg。顔色青白い。腹部の皮下脂肪が薄く、全体に腹筋が経度緊張。振水音著名。手足冷。神経質でやや抑うつ的。

図 4 模擬症例の記載

表2 模擬症例の模範解答処方一覧

症例	模範解答処方	症例	模範解答処方
症例Ⅰ	六君子湯	症例Ⅵ	苓桂朮甘湯
	香砂六君子湯		
	柴芍六君子湯		
	四君子湯		
	人參湯		
	半夏瀉心湯		
症例Ⅱ	八味地黄丸	症例Ⅶ	滋陰降火湯
			麥門冬湯
			滋陰至寶湯
症例Ⅲ	芎歸膠艾湯	症例Ⅷ	柴胡桂枝湯
	溫清飲		桂枝加芍藥湯
	黃連解毒湯		桂枝加芍藥大黃湯
	溫經湯		六君子湯
症例Ⅳ	加味逍遙散	症例Ⅸ	半夏瀉心湯
	女神散		清心蓮子飲
	當歸芍藥散		豬苓湯
	桂枝茯苓丸		豬苓湯合四物湯
症例Ⅴ	小青竜湯	症例Ⅹ	當歸四逆加吳茱萸生姜湯
	小青竜湯加石膏		當歸芍藥散
			當歸芍藥散加人參

表3 模擬症例におけるリストアップ処方の正解率

処方検索方法	薬学部学生 (3~5年生) (n=15)	新人薬剤師 (薬剤師免許取得後 3年以内) (n=23)
アプリ 疾患別疾病分類	80% (n=5)	90% (n=8)
アプリ 身体部位別疾病分類	93% (n=4)	88% (n=8)
書籍	82% (n=6)	90% (n=7)

表 4 模擬症例における最終選択処方への正解率

処方検索方法	薬学部学生 (3~5年生) (n=15)	新人薬剤師 (薬剤師免許取得後 3年以内) (n=23)
アプリ 疾患別疾病分類	40% (n=5)	54% (n=8)
アプリ 身体部位別疾病分類	75% (n=4)	50% (n=8)
書籍	47% (n=6)	71% (n=7)

表 5 模擬症例における 1 処方あたりの解答所要時間の平均

処方検索方法	薬学部学生 (3~5 年生) (n=15)	新人薬剤師 (薬剤師免許取得後 3 年以内) (n=23)
アプリ 疾患別疾病分類	5 分 13 秒 (n=5)	7 分 43 秒 (n=8)
アプリ 身体部位別疾病分類	7 分 10 秒 (n=4)	10 分 50 秒 (n=8)
書籍	7 分 55 秒 (n=6)	10 分 46 秒 (n=7)

一般用医薬品の化学合成品等のリスク区分の見直しに関する研究 一般用医薬品の化学合成品等の効能効果の表現に関する研究

分担研究者 望月真弓 慶應義塾大学薬学部教授
分担研究者 橋口正行 慶應義塾大学薬学部准教授

効能効果の表現がセルフメディケーションにふさわしくない一般用医薬品の 取り扱いについての検討

研究要旨：効能効果の表現がセルフメディケーションにふさわしくない一般用医薬品取り扱いについて、平成 24、25 年度の研究対象用語である 280 語のカッコ付き用語の適切性について、医師 2 名、薬剤師 2 名の専門家、一般消費者 4 名を対象に調査した。評価は意味の分かりやすさ（表現のよさ）を、大変よい（よくわかる）からよくない（わからない）までの 5 段階に分類し、選択するアンケート形式により行った。

調査結果より、本調査で用いたカッコ付き用語は、医師、薬剤師、消費者が 95%以上の用語でよい（わかる）と回答していることから、一般用医薬品のセルフメディケーションを実践する際に、適正使用できる効能効果の表現案と考えられた。

A. 研究目的

一般用医薬品によるセルフメディケーションは、超高齢社会に突入した我が国において、医療制度や医療経済を考える上で、重要な位置づけを占めていると考えられる。

一般用医薬品の効能効果は、原則として「製造販売承認基準」に基づいて一定の範囲で効能又は効果が承認され、製造販売承認基準の制定前に承認された医薬品についても当該基準に基づいて再評価を受けている。しかしながら、過年度の本研究課題において明らかとなったように、一部の一般用医薬品では、「糖尿病」「高血圧」「気管支喘息」「関節リウマチ」などの生活者が使用の可否を自己判断することが難しいと考えられる「効能又は効果」が存在する。このような「効能又は効果」が専門家の関与が必須でないリスク分類に属する一般用医薬品に記載されていれ

ば、中には自己判断で医療機関を受診せず、結果として症状が適切に治療できない患者が生じる可能性は否定できない。また、一般用医薬品の添付文書は患者自身が読むことが基本とされているため、著しく難解な用語や、あまりに広い疾患概念を含む用語も、一般用医薬品の「効能又は効果」の記載としてはふさわしくないと考えられる。

我々は、本研究課題の研究期間において、現在本邦において市販されている一般用医薬品のうち、化学合成品を含有する製剤について、医薬品添付文書に記載されている「効能又は効果」を調査し、セルフメディケーションを実施する上で問題となる効能効果の用語を抽出した。それらの用語の中で、生活者の理解度を改善するための表現方法について検討した。また、表現方法の検討の中で、カッコ付き用語の理解度が 80%に満たなかつ

た用語の要因の検討、カッコ付き用語の修正案を作成し、理解度の改善を検討した。

本年度は、これまでの研究対象用語である280語のカッコ付き用語の適切性について、医師2名、薬剤師2名の専門家、一般消費者4名を対象に調査した。

B. 研究方法

1-1. 調査対象者

調査対象者は、医師2名（年齢34歳、48歳）、薬剤師2名（年齢33歳、62歳）の専門家、一般消費者4名（年齢50歳2名、59歳、61歳）とした。

1-2. 調査対象用語

研究対象である全280語のカッコ付き用語とした。（資料1参照）

1-3. 調査実施期間

平成26年12月1日～平成27年1月31日

1-4. 調査方法・調査項目

自由意思に基づき本調査への参加に口頭による同意が得られた者に対して、自記式アンケート調査を実施した。アンケートは全調査用語280語のカッコ付き用語について、意味の分かりやすさ（表現のよさ）を、大変よい（よくわかる）からよくない（わからない）までの5段階に分類し、選択する方式により行った（図1）。また2以下を選択した場合には、理由と代替の用語案を記入することとした。

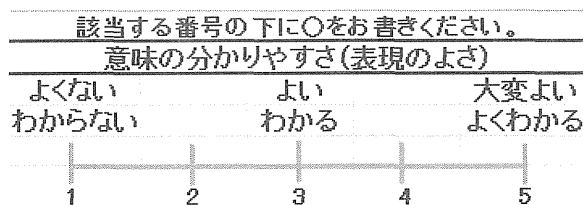


図1 アンケートで用いた意味の分かりやすさを問う5段階評価スケール

調査に用いたアンケート用紙は資料1に

示す。

C. 研究結果と考察

全被験者（8名）による各用語の分かりやすさ（表現のよさ）の平均、医師、薬剤師、消費者別の平均を表1に示す。

各用語の分かりやすさ（表現のよさ）の平均について、全被験者でよい（わかる）（ ≥ 3.0 ）と回答した用語数は、280用語中278用語（99.3%）と100%に近い値であった。その内訳を4以上（ ≥ 4.0 ）、3以上4未満（ $\geq 3.0 < 4.0$ ）、2以上3未満（ $\geq 2.0 < 3.0$ ）、2未満（ < 2.0 ）に分けると、 ≥ 4.0 は239用語（85.4%）、 $\geq 3.0 < 4.0$ は39用語（13.9%）、 $\geq 2.0 < 3.0$ は2用語（0.7%）であった。

また、対象者別にわけた場合は、医師でよい（わかる）（ ≥ 3.0 ）と回答した用語数は、267用語（95.4%）であった。その内訳は、 ≥ 4.0 は192用語（68.6%）、 $\geq 3.0 < 4.0$ は75用語（26.8%）、 $\geq 2.0 < 3.0$ は12用語（4.3%）で、 < 2.0 は1用語（0.4%）であった。

薬剤師でよい（わかる）（ ≥ 3.0 ）と回答した用語数は、279用語（99.6%）であった。その内訳は、 ≥ 4.0 は268用語（95.7%）、 $\geq 3.0 < 4.0$ は11用語（3.9%）、 $\geq 2.0 < 3.0$ は1用語（0.4%）であった。

消費者でよい（わかる）（ ≥ 3.0 ）と回答した用語数は、277用語（99.0%）であった。その内訳は、 ≥ 4.0 は234用語（83.6%）、 $\geq 3.0 < 4.0$ は43用語（15.4%）、 $\geq 2.0 < 3.0$ は3用語（1.1%）であった。

医師、薬剤師、消費者が95%以上の用語でよい（わかる）と回答していたが、3未満（ < 3.0 ）を回答した用語数については、特に医師と薬剤師、消費者との間で違いがみられた。

医師が ≥ 2.0 - < 3.0 と回答した12用語は、「化膿傷（かのうしょう）」、「化膿症（かのうしょう）」、「化膿（かのう）性創傷面の殺菌消毒」、「外陰炎（女性器の炎症）」、「脚気（かっけ）」、「神経衰弱（しんけいすいじゃく）」、「腺病質（虚弱体質）」、「頭重（頭が重い状態）」、「脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏睾丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）」、「発疹（皮膚の表面にあらわれる斑点などの手で触ることができる病変）」、「癩（しやく、胸やおなかの急激な痛み）」、「外聴道炎（外耳炎）」であった。その理由として、「化膿（かのう）性創傷面の殺菌消毒」、「化膿傷（かのうしょう）」、「化膿症（かのうしょう）」は、化膿を「かのう」としているに過ぎないとの意見で、代替案としては、「化膿傷（かのうしょう）」は「膿を伴った傷」、「化膿症（かのうしょう）」は「膿を伴った症状」があげられた。「外陰炎（女性器の炎症）」は、「炎症」という状態が一言で分かるのか？という意見で、代替案として、「女性器の腫れ、熱感を伴った痛み」であった。「脚気（かっけ）」は、この表現で本当に意味がわかるかの疑問があり、代替案としては、すでに提案している「脚気（かっけ、ビタミンB1の不足による足のしびれ・むくみなど）」の方が分かりやすいとの意見であった。「神経衰弱（しんけいすいじゃく）」は、神経が弱ってどうなるのかよく分からないとの意見で、代替案として「神経の働きがにぶる状態？」との提案があった。「腺病質（虚弱体質）」は、虚弱体質というのがどのような体質かが分からないとの意見で、代替案として「すぐに疲れやすくなったり、元気がない体質」であった。「頭重（頭が重い状態）」は、「頭が重い感じのする状態」の方がよいとの

提案であった。「脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏睾丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）」、「発疹（皮膚の表面にあらわれる斑点などの手で触ることができる病変）」、「癩（しやく、胸やおなかの急激な痛み）」は、2と回答した医師による代替案の提案はなかった。おそらく消費者にその状態を適切にわかってもらえる適切な表現案が思い浮かばなかったものと思われる。「外聴道炎（外耳炎）」は、「外耳の腫れ、熱感を伴った痛み」がよいとの提案であった。

< 2.0 の1用語は、「はれ痔（じ）」であった。その理由は、同じ痔でも他との違いが分からないとのことで、代替案として、「腫れて、痛みが出るタイプの痔」の例が提案された。

薬剤師が ≥ 2.0 - < 3.0 と回答した1用語は、「脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏睾丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）」であった。これに関しては、医師と同様に2と回答した薬剤師による代替案の提案はなく、消費者にその状態を適切にわかってもらえる適切な表現案が思い浮かばなかったものと思われる。

消費者が ≥ 2.0 - < 3.0 と回答した3用語は、「化膿症（かのうしょう）」、「結膜囊（まぶたの裏から眼球にかけての袋状の部分）の洗浄・消毒」、「脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏睾丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）」であった。その理由として、「化膿症（かのうしょう）」は、言葉の意味がわからない、症がつくことで全身疾患のように思うという意見があり、代替案として「化膿（かのう）」があげられた。「結膜囊（まぶたの裏から眼球にかけての袋状の部分）の洗浄・消毒」は、洗浄、消毒とは思わない、場所（患部）のイメージができない（「袋」の言葉の印象が強

く、涙袋を想像した等あり、代替案として「結膜のう（まぶたの裏から眼球をおおう結膜の袋状になった部分）」があげられた。「脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏辜丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）」は、症状のイメージが全くできない。（ ）の中を見なければ、まったく意味がわからない、脳下垂体性腺ホルモンが効かない潜伏辜丸という意味か？という意見があり、脳下垂体性腺ホルモン無効という原因であるならば、代替案として、「脳下垂体性腺ホルモン無効による潜伏辜丸（精巣がお腹の中にとどまっている状態）」がよいとの意見があった。

昨年度までの検討で、理解度を高めるための方法としてカッコの付随では限界があると考えられた7用語の中で、結膜嚢（まぶたの裏から眼球にかけての袋状の部分）の洗浄・消毒と脳下垂体性腺ホルモンが無効の潜伏辜丸（精巣が腹の中にとどまっている状態）の2用語のみ、意味の分かりやすさ（表現の）に関する回答で、消費者の平均は3未満であったが2を下回ってはいなかった。そのことから、これらの2用語のカッコの付随による補足説明は、よくない（わからない）というものではないことが明らかとなった。しかしながら、今後、意味が正確に理解できるものに、改善していく必要があると思われる。

分かりやすさ（表現のよさ）の平均値別の用語一覧を表2に示す。

本調査結果を踏まえて、昨年度のカッコ付き用語より修正した用語一覧を表3に示す。

D. 結論

効能効果の表現がセルフメディケーションにふさわしくない一般用医薬品取り扱いについて、平成24、25年度の研究対象用語である280語のカッコ付き用語の適切性に

ついて、医師2名、薬剤師2名の専門家、一般消費者4名を対象に調査した。

その結果、今回のカッコ付き用語は、医師、薬剤師、消費者が95%以上の用語でよい（わかる）と回答していることから、一般用医薬品のセルフメディケーションを実践する際に、適正使用できる効能効果の表現案と考えられる。

従って、これらの表現方法は一般消費者の適正なセルフメディケーションの実践において、有用であると考えられる。

E. 健康危険情報

特になし。

F. 研究発表

特になし

G. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

表1 分かりやすさ（表現のよさ）別に分類した用語数と割合

分かりやすさの 平均	用語数 (%)			
	≥4.0	≥3.0- <4.0	≥2.0- <3.0	<2.0
全被験者 (N=8)	239 (85.4)	39 (13.9)	2 (0.7)	0 (0.0)
医師 (N=2)	192 (68.6)	75 (26.8)	12 (4.3)	1 (0.4)
薬剤師 (N=2)	268 (95.7)	11 (3.9)	1 (0.4)	0 (0.0)
消費者 (N=4)	234 (83.6)	43 (15.4)	3 (1.1)	0 (0.0)

(全調査用語数 280 語)

表2 分かりやすさ（表現のよさ）の平均値別の用語一覧

4 以上 (≥4.0) : 239 用語
とり目（暗いところで目が見えにくい）
はき下し（吐いたり下痢をしたりすること）
筋肉の疼痛（筋肉の痛み）
日光皮膚炎（日焼け）
肘（ひじ）の痛み
面疱（にきび）
あかざれ（乾燥や炎症による手足、指のひび割れ）
かかと・くるぶし・ひざ・ひじの角化症（皮膚の角質が厚くなったもの）
さかむけ（ささくれ）
咽頭痛（のどの痛み）
感冒（かぜ）
魚の目（皮ふの角質の一部が厚くなり、痛みを伴うもの）
口腔・咽喉（のど）のはれ
口腔・咽喉（のど）内の消毒及び殺菌
痔（じ）
壮年性脱毛症における発毛（若はげにおける発毛）
打ち身（だぼく）
打撲（だぼく）
捻挫（ねんざ）
脳溢血（脳出血）
排膿（うみをだすこと）
抜歯後の疼痛（抜歯後の痛み）
腹部の膨満（おなかが張った感じ）
腹部膨満感（おなかが張った感じ）
嘔気（はきけ）
痰咳（たんせき）
くすりまけ（塗り薬によるかぶれ）
わきが（わきの下から特有の不快なおいを発する症状）
胃腸膨満感（おなかが張った感じ）
胃部・腹部膨満感（おなかが張った感じ）
胃部膨満感（おなかが張った感じ）
火傷（やけど）

火傷（やけど）などの殺菌消毒
火傷（やけど）による傷跡
火傷（やけど）等の殺菌・消毒
感冒の予防（かぜの予防）
眼性疲労（目の疲れによる頭痛、肩こりなど）
眼精疲労（目の疲れによる頭痛、肩こりなど）
脚気（かっけ、ビタミンB1の不足による足のしびれ・むくみなど）
擦過傷（すりきず）
歯周炎（歯肉炎が進み、歯がぐらついたりしみたりすること）の予防
痔（じ）疾
湿疹（しっしん）
若禿（わかはげ）
消化不良による胃部・腹部膨満感（おなかが張った感じ）
消化不良による腹部膨満感（消化不良によるおなかの張り）
常習性便秘（慢性の便秘）
水あたり（生水を飲んでおなかを下すこと）
赤鼻（顔がほてり鼻や頬が赤くなる）
壮年性脱毛症（若はげ）
霜焼（しもやけ）
乳切れ（母乳を与えるなどにより乳首が切れてしまうこと）
捻挫（ねんざ）後のはれ
捻挫痛（ねんざつう）
肥満症（肥満により健康障害があるもの）
利尿（尿が出やすくなること）
裂痔（切れ痔（じ））
嘔吐（おうと）
扁桃腺炎（のどの奥の扁桃腺のはれ）
肛門の裂創（切れ痔（じ））
いぼ痔（じ）
かゆ痔（かゆみを伴う痔（じ））
しらくも（水虫の原因となる菌による頭のかゆみ、フケなど）
たこ（皮膚の角質が厚くなったもの）
とびひ（細菌感染によって水ぶくれができ、体中に広がってゆく病気）
びまん性脱毛症（頭髪全体が薄くなる脱毛症）

リウマチ性疼痛（リウマチによる関節などの痛み）
胃重（胃が重たい感じ）
化膿性創傷（うみをもった傷）
乾皮症（皮膚が乾燥した状態）
筋ちがい（筋肉や腱が打撃または無理に伸ばされることによって生ずる炎症）
月経困難症（月経の際の腰痛・下腹痛・吐き気・下痢・不快感など）
口角炎（くちびるの両端のただれ）
口腔，咽喉の含嗽洗浄（うがい）
口唇き裂（くちびるのひび割れ）
更年期神経症（更年期の情緒不安定や気分の落ち込み）
痔出血（じしゅっけつ）
耳だれ（耳の炎症から液体が流れ出る状態）
耳漏（耳の炎症から液体が流れ出る状態）
手指の角化（手指の表面の角質が厚くなること）
手足のそこまめ（手や足の裏のまめ）
神経性難聴（耳の神経障害によって聞こえが悪くなる）
水疱性斑状白癬（水虫の原因となる菌による皮膚の炎症、かゆみ）
舌炎（舌の炎症、はれ・痛み）
創傷（きず）
打撲痛（だぼくつう）
吐乳（乳児が母乳を吐くこと）
凍傷（極度な寒冷による皮ふ組織の傷害）
内痔核（肛門の内部にできたいぼ痔（じ））
膿（う）みにきび
皮膚乾燥及び角化症（皮膚の角質が厚くなったもの）
浮腫（むくみ）
裂肛（切れ痔（じ））
扁桃炎（のどの奥にある扁桃のはれ）
肛門そう痒（肛門周囲のかゆみ）
肛門そう痒症（肛門周囲のかゆみ）
肛門湿疹（しっしん）
肛門裂創（切れ痔（じ））
腋臭（わきが、わきの下から特有の不快感なおいを発する症状）
さしこみ（胸やおなかの急激な痛み）

さめ肌 (サメの皮のようにざらざらした肌)
びらん (ただれ)
めんちょう (顔にできるおでき)
悪寒 (おかん)
悪寒 (ぞくぞくする寒気)
悪心 (吐き気)
咽喉痛 (のどの痛み)
運動後の疼痛 (運動後の筋肉痛)
黄疸 (胆汁色素が血中に増加し、眼球や皮膚が黄色くなった状態)
化膿性皮膚科疾患 (うみをもった皮膚の病気)
寄生虫性貧血 (寄生虫が原因の貧血)
強心 (心臓の働きを強めること)
強壯 (体を強く元気にする事)
血清 (血中) 高コレステロールの改善
脂漏性湿疹 (頭皮や鼻周辺など皮脂の分泌の多い部位にできる湿疹 (しっしん))
脂漏性皮膚炎 (頭皮や鼻周辺など皮脂の分泌の多い部位にできる湿疹 (しっしん))
歯槽膿漏 (しそうのうろう)
歯槽膿漏 (しそうのうろう)・歯肉炎の予防
湿潤性湿疹 (しっしん)
床ずれ (寝たきりにより皮膚が圧迫され、その部分がただれたり組織が死ぬこと)
色斑症 (しみ)
神経衰弱性陰萎 (精神的要因により十分な勃起が得られないこと)
腎性高血圧症 (腎臓が原因の高血圧)
衰弱性射精 (本人の意志とは関係なく、漏れるように射精してしまうこと)
全身倦怠 (けんたい)
創傷面の被覆 (傷口をおおうこと)
智歯周囲炎 (親しらずのはれ・痛み)
鎮痒 (かゆみを抑える)
頭部白癬 (水虫の原因となる菌による頭のかゆみ、フケなど)
乳ぎれ (母乳を与えるなどにより乳首が切れてしまうこと)
膿瘍 (うみがたまった状態)
皮膚潰瘍 (皮膚が深く傷ついた状態)
面ちょう (顔にできるおでき)
毛のう炎 (毛穴にうみがたまる症状)

夜盲症（とり目、暗いところで目が見えにくい）
薬物性皮膚炎（薬剤によって引き起こされた皮疹）
濕疹（しっしん）
疱疹状皮膚炎（強いかゆみを伴い赤み・水ぶくれを生じる皮膚炎）
痒痔（かゆみを伴う痔（じ））
腋窩無毛（脇の下の無毛）
くる病（ビタミンD不足による小児の骨の発達異常）
くる病（ビタミンD不足による小児の骨の発達異常）の予防
こしけ（おりもの）
さけ痔（じ）
せつ（おでき）
はたけ（顔などに白い斑ができる皮膚病）
ひじ・ひざ・かかと・くるぶしの角化症（皮膚の角質が厚くなったもの）
胃部・胃部膨満感（おなかが張った感じ）
咽喉炎（のどの炎症）
咽頭炎（のどの炎症）
陰部そう痒症（女性の生殖器のかゆみ）
外痔核（肛門の外側にできたいぼ痔）
角質化（皮膚の角質が厚くなったもの）
汗疱性白癬（水虫）
急性・慢性湿疹（急性と慢性のしっしん）
筋肉リウマチ（首、肩、腰の痛みと筋肉のこわばり）
血の道（月経時・更年期・妊娠期にみられる症状、のぼせ・めまい・頭痛など）
血の道症（月経時・更年期・妊娠期にみられるのぼせ・めまい・頭痛など）
子宮病（月経時や更年期の不快感）
痔核（いぼ痔（じ））
進行性指掌角皮症（手あれ、皮ふが乾燥して固くなる）
睡気・倦怠感（けんたいかん）の除去
打撲（だぼく）傷
潰瘍（皮膚、粘膜の組織の欠損）
頭部浅在性白癬（水虫の原因となる菌による頭のかゆみ、フケなど）
膿疱疹（皮膚にできた膿をもつ水ぶくれ状の発疹）
白癬（水虫の原因となる菌による皮膚の炎症、かゆみ）
白癬菌症（水虫の原因となる菌による皮膚の炎症、かゆみ）